

共生細胞進化研究室

メンバー

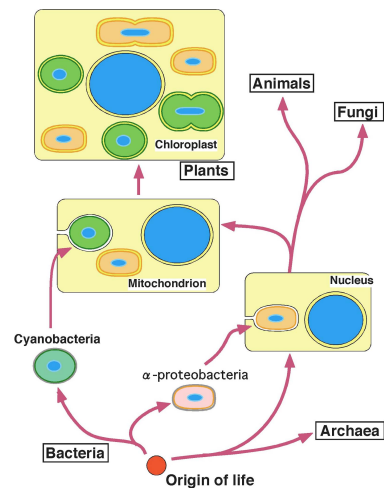
教授 宮城島 進也
助教 藤原 崇之
博士研究員 廣岡 俊亮
博士研究員 大沼 亮
博士研究員 小林 優介

博士研究員 小林 優介
総研大 D4 Jong Lin Wei
学術支援技術補佐員 橋本 清美
技術補佐員 田中 嘉子
技術補佐員 宇治川 玲子
技術補佐員 富田 麗子

二つの異種細胞の統合により新たな性質を持つ細胞が生まれる機構を研究しています

研究内容

真核細胞内でエネルギー変換を行う細胞内小器官、ミトコンドリアと葉緑体は、10億年以上前にそれぞれプロテオバクテリアとシアノバクテリアが真核細胞内に共生して誕生しました。その他、真核細胞が別の細胞を取り込み、新機能を獲得する例は広く見受けられます。このような二種の細胞の世代を超えた持続的統合には、宿主細胞の分裂増殖に伴った、共生細胞の分裂・増殖の制御が必須です。本研究室では、もともと別の細胞であった宿主細胞と共生細胞がどのようにして一緒に分裂増殖するのか、そのような機構がどのように進化してきたのかを研究しています。

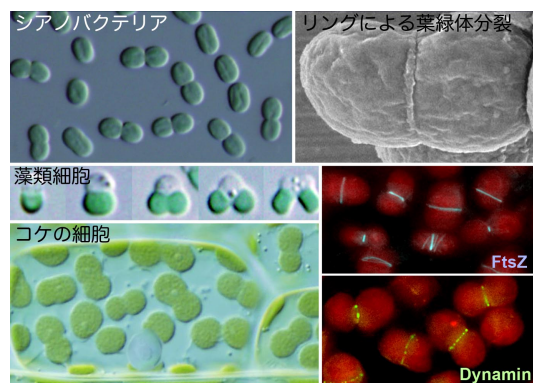


これまでにわかったこと

我々は、葉緑体とミトコンドリアの分裂が、それぞれ祖先のバクテリアと宿主真核細胞の両方に由来する部品から構成されるハイブリッド装置によって引き起こされることを世界に先駆けて解明してきました。

これから解明すること

- (1) 葉緑体、ミトコンドリア、その他の細胞内共生細胞の分裂が、如何にして宿主細胞によってコントロールされているのか
- (2) 逆に、共生体のエネルギー生産・物質代謝が、宿主細胞の分裂増殖にどのような影響を与えているのか
- (3) これらの機構がどのように進化したのか



(4) 葉緑体・ミトコンドリア以外の細胞内共生系ではどのような分裂制御系があるのか
上記のようにいろいろな角度から、どのようにして異種細胞が統合され一緒に増えるようになるのか、その基本原理を解明していきます。

研究材料・方法

研究にはそれぞれの解析に適した生物種を選んで使います。現在までに使用してきた生物は、種子植物（シロイヌナズナ）、ヒメツリガネゴケ、緑藻、紅藻、灰色藻、珪藻、細胞性粘菌、シアノバクテリアなどです。必要に応じて新たな生物種も取り入れていきます。

細胞生物学、分子生物学、遺伝学、生化学、バイオインフォマティクスだけでなく、環境、酸化還元反応などの生体エネルギー変換などの情報を必要に応じて組み合わせた研究を進めます。

その他詳細は研究室ホームページをご覧ください。

(<http://miyagishima.sakura.ne.jp>)

連絡先

宮城島 進也 (みやぎしま しんや)

〒411-8540 静岡県三島市谷田 1111 国立遺伝学研究所 遺伝形質研究系 共生細胞進化研究室

Tel: 055-981-9411; E-mail: smiyagis@nig.ac.jp

最近の主な発表論文

- Hirooka, S., Hirose, Y., Kanesaki, Y., Higuchi, S., Fujiwara, T., Onuma, R., Era, A., Ohbayashi, R., Uzuka, A., Nozaki, H., Yoshikawa, H., and Miyagishima, S. (2017). Acidophilic green algal genome provides insights into adaptation to an acidic environment. **Proc. Natl. Acad. Sci. USA**. 114, E8304-E8313.
- Sumiya, N., Fujiwara, T., Era, A. and Miyagishima, S. (2016) Chloroplast division checkpoint in the algal cell cycle. **Proc. Natl. Acad. Sci. USA**. 113, E7629-E7638.
- Miyagishima, S., Fujiwara, T., Sumiya, N., Hirooka, S., Nakano, A., Kabeya, Y., and Nakamura, M. (2014) Translation-independent circadian control of the cell cycle in a unicellular photosynthetic eukaryote. **Nat. Commun.** 5, 3807.
- Nakabachi, A., Ishida, K., Hongoh, Y., Ohkuma, M., and Miyagishima, S. (2014) Aphid gene of bacterial origin encodes a protein transported to an obligate endosymbiont. **Curr. Biol.** 24, pR640.
- Kabeya, Y. and Miyagishima, S. (2013) Chloroplast DNA replication is regulated by the redox state independently of chloroplast division in *Chlamydomonas reinhardtii*. **Plant Physiol.** 161, 2102-2112.
- Miyagishima, S., Suzuki, K., Okazaki, K., and Kabeya, Y. (2012) Expression of the nucleus-encoded chloroplast division genes and proteins regulated by the algal cell cycle. **Mol. Biol. Evol.** 29, 2957-2970.
- Miyagishima, S. (2011) Evolution and regulation of the plastid division machinery. **Plant Physiol.** 155, 1533-1544.
- Miyagishima, S. and Kabeya, Y. (2010) Chloroplast division: squeezing the photosynthetic captive. **Curr. Opin. Microbiol.** 13, 738-746.